



当日、駆けつけた道北・鎌田卓麻選手(左)。



実況アナウンスの島根・古藤さん。



岐阜三菱・川島さん。



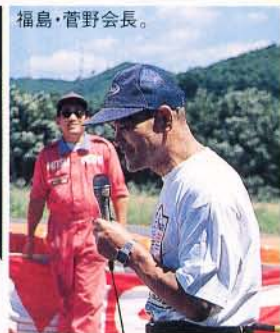
菅野審査委員。



本部 田口さん。



外川会長。 福島・菅野会長。



本部・須賀さん。



本部メンバー。



ご協賛いただいたスポンサー (50音順)

- IPF(株)
- (株)青木科学研究所
- (株)旭通信社
- (株)アライヘルメット
- (株)伊勢丹
- (株)エスエスリミテッド
- オーツタイヤ(株)
- カヤバ工業(株)
- (株)サミット
- 住友ゴム工業(株)
- (株)タスカエンジニアリング
- (株)テストアンドサービス
- (株)東京映像社
- 日本特殊陶業(株)
- 日本ミシュランタイヤ(株)
- (株)長谷川製作所
- (株)ブリヂストン
- ミツワモデル
- 横浜ゴム(株)
- (株)菱東エステック



楽しかった夏の全国大会。
また、お会いしましょう。

CMSC島根 古藤浩美

7
コトーの連続コーナー

ひと夏の体験

選手 荒井

97CMSC全国大会の
シムカーナ大会...
やほり目玉は、の方!

気心の「コトー」ラジエーター
タムロフのあには
リクを指導するし、見守るまで
マゼン手前さん。

使えな車
今日の救え

作者
コトー

悪人の不奇をー!!

荒井さんごめん...!

ミラーージュ・
カーブラザカップ第3戦

CMSC栃木 添田正選手 ポール・トゥ・ウィンで今季2勝目!

'97ミラーージュ・カーブラザカップ・シリーズ、今季の中間点となる第3戦は、7月5・6日、筑波サーキットに33台が参加して開催されました。予選、決勝とも好天に恵まれ気温は40度近くまで上昇。非常に厳しいコンディションとなりました。この中、CMSC栃木の添田正選手が見事なポール・トゥ・ウィンで第1戦に続く今季2勝目を挙げました。

路面温度50度にも達しようかという猛暑の中で行われた予選では、各選手ともタイヤの消耗度を抑えようとやや控えめなアタック。その中、添田選手が1分5秒500のトップタイムで久しぶりのポールポジションを獲得。以下1秒以内に半数近い数の選手がひしめく結果で、激戦必至の決勝に注目が集まりました。

決勝当日も快晴、猛暑。「今年から実施されたタイヤ4本規制のため予選周回数1番少ない私が有利なので、スタートさえ失敗しなければ序盤から逃げる作戦でした。前に目標のいないスタートは少し緊張しましたがタイミング良くクラッチミート出来ました。4周目位で後ろがだいぶ離れたので、後は後続と



猛暑の中、快走の添田選手。

の差を確認しながら1分5秒後半から6秒前半で周回。途中、数回ブレーキロックさせたり等自分のミスもあり、特にラストラップの1ヘアで大きくタイムロスをして2位の選手にかなり詰め寄せられましたが何とかそのままゴール。このクラスでは初めてのベストラ

ップも記録出来ました。」と添田選手。独走で20周を終了し、今季2勝目。ポイントでも2位と11ポイントと差を広げ、初めてのシリーズチャンピオン獲得に向け、大きく前進しました。

CMSC仙台 高橋しげる ミラーージュ・東北シリーズ第3、4戦優勝記

第2戦の雪辱を胸に、第3戦に備えて行った練習は、台風7号の影響で大雨の中。6月28日の予選も台風8号で大雨。私は「うれしくて」仕方ありませんでした。練習の成果が充分発揮できます。予想通りポールポジションをGET!「決勝でも雨が降れば最高のレースになる」と思い一人で喜んでいたら、当日は晴れてしまいました。

29日昼、スタート。うまくダッシュが決まり1コーナーまでに完全に前に出る事が出来ました。ミラー越しに後ろを見ると、2位争いのバトルをしています。その間に引き離そうと思い、タイヤの様子を探りながら走行しました。1周目、予定通り2位と約2秒近く差をつけたので、あとは後ろとの距離を見ながらペース配分を考えました。後半、タイヤに優しい走りをしていても、タイヤがつかうような2位との間が少しづつ離れていきます。2位に8秒、3位に30秒の差をつけ、無事フィニッシュする事が出来ました。体力的に

絶好調の走りで連勝! 今季3勝目!

も精神的にも、とても楽なレースでした。タイヤも温存し、ラップタイムも2周目からゴールまで全て7秒台でした。

8月2・3日にスポーツランドSUGOで行われたミラーージュ・インターナショナル・ラリーアートカップ・シリーズ第4戦にはスポット参戦し、3位に入る事が出来ました。この好調をこのまま持続したいと思いつつ、東北シリーズ第4戦へ臨みました。

9月6日、第4戦、予選。アタック1周目にトップタイムをマーク。ポールポジションを獲得しました。7日の決勝はレース前まで雨。ウェットコンディションの中、序盤は2位の選手にかなり詰められました。しかし、インターナショナルシリーズでの3位入賞が自信になりました。その後は周回毎に差を広げる事が出来、今季3度目のポール・トゥ・ウィンで終了。ポイントでも単独トップに立つことが出来ました。最終戦もこの調子で突っ走ります。



今季3度目ポール・トゥ・ウインの高橋選手。

全日本ラリー
第6戦Bクラス

CMSC帯広 小林康弘選手 今季2勝目でチャンプへ近づく!

'97全日本ラリー選手権第6戦「ノースアタックラリー」は初夏の北海道をフィールドに7月5～6日、合計55台が参加して開催されました。コースは北海道勇払郡占冠村トマムをスタート、夕張市をゴールとする全日本ラリー最長の463km。変化に富んだダイナミックなコースが設定され、WRCの手法や運営方法を出来る限り取り入れる等、スポーツ性の高いラリーとして注目を集めて開催となりました。一方、ハイスピード、ロングSSによるコースアウトや車へのダメージも大きく、23台がリタイヤするサバイバルラリーとなりました。

5日、朝8時、第1ステージのスタート。ミラーージュ同士、CMSC勢同士が毎回激戦を繰り広げているBクラスですが、まずCMSC道北の鎌田豊選手がSS1でトップタイムを叩き出しリード。続いて浜松の菅野正之選手、鹿児島

の原口真選手が1秒遅れの2番手につけます。高速ステージのSS2で鎌田選手が3位に後退すると、代わって帯広の小林康弘選手が首位に立ちます。SSごとにミラーージュ勢がトップタイムを奪い合う緊迫した展開となりましたが、小林選手は安定した走りで首位をキープします。午後の第2ステージになると雨が降り出し、路面状況は一転。各選手タイヤチョイスに苦慮、荒れた路面と長いSSでタイヤの使用本数も増えます。夕刻からの第3ステージではやや精彩を欠いた走りの小林選手。トップタイムの選手に追い上げられますが、首位を堅持します。

明けて6日、最終ステージ。やはり2位の選手にSS15、16とトップタイムを出されましたが、小林選手は前半のアドバンテージが効いて、見事、今季2勝目を挙げました。有効ポイントも伸ばし、シリーズチャンピオンへとまた



激戦のBクラスを制した小林選手。

一歩近づきました。